

シルバー通信

役員就任挨拶

第 40 号の 1 (平成 21 年度 - 1 号)

2009 年 7 月発行

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会
連絡先 〒540-0012

大阪市中央区谷町 5 - 4 - 13

大阪府谷町福祉センター

072-753-9087(理事長宅)

U R L <http://sa-renkyo.com>

平成 21 年度 S A 連協の活動にあたって

会員の皆様 日頃のボランティア活動、ご苦労様でございます。

今般、4月の理事会において、平成 21 年度の役員の承認を頂き、ありがとうございました。この 1 年、全力投球でそれぞれの任務に努める所存ですので、ご支援、ご協力方よろしくお願いいたします。

現在、それぞれ各部門での活動を展開しております。また、各地区 S A においても順次総会が開かれ、新体制のもとで、スタートしていることと思います。

特に、今年度からは、連協を取り巻く環境は、大きく変化しております。そのための対応として、組織、活動については、

会則の改定により、理事会の構成メンバー数を減らしてスリム化しました。

組織は、委員会・部会と役割分担をシンプルに分かりやすくしました。S A 全体の戦略、戦術を練る委員会と具現化した部会活動とに明確化しました。

各地区 S A の活性化、S A 連協の連帯感、一体化を醸成するために、ブロック制を導入して、ブロック内やブロック毎での交流を図り、”和の構築”を目指します。

今年は連協設立 20 周年に当たり、設立当初の原点を振り返り、各部会活動を見直し、健康増進や福祉 IT の新しい柱の育成を図っていきます。各部会の活性化が、S A 連協全体の活性化に繋がっていくものです。

次に、大きく変わった講座については、これ

理事長 和佐 義顕 (いけだ 19 期環境)



までの S A 養成講座の独立した形から、アクティブシニア講座としてあったカルチャ科目と一体化の中で、一つの科目として捉えられた形になりました。

また、運営も官から民へとなり、理念は、継承されるとありますが、

費用対効果の観点から、S A の理念が、薄れつつある今日、今後も維持継続されるかどうか？注視する必要があります。それに付随する、大阪府からの認定証の問題もあります。

この動向が、私たち S A 連協、ひいては各地区 S A の将来を左右することになります。広い意味でのボランティア活動、社会貢献ということと、S A という本来の理念を堅持していくことと、その折り合いをどのように、考え対応していくか？大きな問題だと思います。各地区 S A 会員の皆様、お 1 人お 1 人にも、考えて頂きたいと思います。

このような状況においては、大阪府高齢者大学校は勿論、他の関係団体と連携を図り、特に大阪府行政との関係強化を目指しながら、継続して S A の存在意義の認知に今まで以上に強くアピールしていくことが大事です。

いずれにしても、S A 全体を通して言える事は、やって楽しい、やって良かった、サムエル・ウルマン の ”青春とは” にある、高まりを持ち続けたいと思います。

S A 連協会員の皆様と一緒に ”魅力ある S A づくり” に邁進していきましょう！

渉外委員長就任にあたって

副理事長 岩井 博（大阪市 17期福IT）

此の度、和佐理事長から誠意と熱意を以って渉外委員長への強い要請を頂きました。

私は若輩で経験未熟でこのような大役をお引き受けして、お役に立てるかどうか分かりませんが、人生経験豊かな諸先輩の皆様方のご指導を受け、頑張っって参りたいと思いません。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

昨年、アメリカ発の金融危機は全世界中に不況をもたらし、日本も経済不安が増し、これからの社会情勢がどのように推移するか見通しが立っておりません。日頃私達が活動しているボランティアの世界にも色々な影響が出て参りました。

又、橋下大阪府知事は「財政再建」の名の下に私たちが修了しましたSA養成講座を平成20年度で廃止しました。平成21年度のSA養成講座は、NPO法人「大阪府高齢者大学校」が行い、「地域コーディネーター科」(49名)と「多世代交流科」(45名)の受講申し込みがありました。今後、このSA養成講座がどのように推移していくかは不透明なところがあ

ります。SA講座の存続は当会にとって最大の課題です。

又、当会は会員の高齢化が進み、会員のいない地区もあり、今後どのように対応していくかが大きな課題です。

このような状況を踏まえ、渉外委員会の本年の活動計画は大阪府などの行政との関連の強化 SA連協とNPO・大阪府高齢者大学校、NPO・SA ネット大阪などの関係団体と情報交換し、関係を強化する SA連協とその他の外部組織との問題を解決する、ことを目標にしています。3つの計画には、それぞれ諸々の事情があり大変難しい課題です。

当会は設立から20年、会員数1000名の実績のある団体です。当会の存続と繁栄のためにも和佐理事長や経験豊富な渉外委員の皆様と一致、協力して「渉外活動」に邁進したいと思ひます。又、役員の皆様、会員の皆様のお知恵をお借りし、ご支援、ご協力を得ながら活動を行って参ります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

企画委員長就任にあたって

副理事長 小川 忠夫（吹田 18期世代）

新年度のSA連協の活動部門として、企画委員会の中に、おもちゃ部会・歌体操部会・健康増進部会の3部門を配し、それぞれの部会が地区SAとの連携を強め全体での活動、ブロックとしての活動を推進する方向性を確認しました。

特に昨年からの継続課題としてのブロック活動は議論を尽くし、「出来るところから、出来ることから、出来る方法で」を合言葉にして出発したいと考えています。何か新しい試みをする時は、それなりの議論も沸きあがり、反応もいろいろですが多くの皆様方の総意をまとめる方向で活動を展開していきたいと思ひています。

このたび、企画委員長として組織構成を

していく中で、多くの地区SA会長や部会員候補の方々と話し合う機会が持て、それぞれの地区の活動状況の難しさや悩みなど聞くことが出来ました。どこも共通していることは、自分の所だけでも大変なのに、連協のことまで手が回らない、と言った声でした。逆に連協に期待する声も多くこのギャップに戸惑いました。連協の活動と地区SAの活動に何らかのつながりが感じられ、連協の活動が自分たちの活動に少しでも役立っている、と感じていただけるような活動にしていきたいと強く思ひます。そんな、甘くは無いで！。連協なんか何のためにあるの。連協なんか無くても自分の所の活動には影響ない。いろいろな

意見がある中で、実感として連協の存在が自分たちの活動と繋がっているとの認識がなければ評価はしていただけないと思

います。何かひとつでも、少しでも連協と地区 S A のつながりを求めて活動をしていきたいと思っています。

広報委員長就任にあたって

副理事長 大川 正彦 (藤井寺 18 期国際)

人は高齢になると二つの手を持つと聞きました、一つは自分を支える手、もう一つは他人を支える手、私のお気に入りのフレーズ (言葉) です。でも、いやいや行くと相手にもその気持ちが、伝わるものです。出来れば楽しくボランティアは行いたい、相手にもその気持ち伝われば良いなと思っています。

さて S A 連協の今期の思いを下記に述べます。

広報委員会目的

連協の広報とは 連協 3 本柱の一つで

- ・「行政との共生 (渉外)」
 - ・「将来への中期短期計画 (企画)」
- を会員へ「連協の考え方、計画、実際の諸活動」を「HP、広報紙で広く報せる (広報)」を目的としています。また IT スキルの啓発も二次的に行います。

広報計画

- 1) 各地区とのアプローチ、スタンス (姿勢)
・報告 連絡 相談・現地現物、接点を短くする三ブロック制。
- 2) 経費の運用収入財政乏しい中でのあり方の研究
・費用の捻出・広告・寄付・助成金 (連協全体の) etc
・HP 運用経費・広報紙発行経費・IT 部会運営経費の検討
- 3) リアルタイムでの広報
・中期、短期の計画進捗・現地 現物の速報、確定報告
- 4) 具体的活動 項目は三部門「広報紙、ホームページ、福祉 IT」と調整。
各地区理事会員さまのご理解、ご支援を宜しくお願い致します。

SA 連協および関連団体のイベント報告

広報誌部会長 服部 早樹子 (大阪市 19 期福 IT)

第七回国際交流サロン 英語落語会

3 月 22 日 (日) 2 時 ~ 4 時まで大阪府社会福祉会館 4 階に於いて、NPO 法人シルバーアドバイザー、ネット大阪主催、NPO 法人大阪府高齢者大学校、財団法人大阪府地域推進財団、大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会、高齢者大学同窓会連絡協議会協賛による英語落語おふく寄席が開催されました。英語落語は初めてでしたがグローバルの世界を実感しました。

永田理事長の挨拶から笑人さんとアメリカ人寿演さんによる英語落語ワールドへのいざないでした。英語で落語の基本所作を (そば喰い、石焼芋、キセル等) で笑わせて頂きました。続いて自称 “ハゲジジイ” の八笑さんの “Monkey”、次いで子供英語スピーチコンテスト特別賞受賞した小学 4 年の小蘭さんの落語

教室では馴染みの “階段” を。4 番目に古典落語の “茗荷屋” をこいとさんが英訳し演じられました。10 分間の中入り後、マリリーサさんの英語漫談、自身の体験がネタ元の “うそつきガイド”。落語の幽霊話に関心の深いトルコ人留学生、我楽亭ハリトさんの “幽霊の辻”。最後



は笑人さん司会の体験高座でアメリカ人のエレンさんと寝屋川の谷さんが舞台上がられました。谷さんは早くから来場され開演を待ちわびておられたとの事で舞台度胸も満点でし

た。うどんとアイスクリームの話で会場が大いに盛り上がり本当に笑わせて頂きました。又小学2年の可愛い少女“心笑”さんがお茶子を務められ華を添えられました。

NPO法人大阪府高齢者大学校入学式

4月14日(金)午前10時から天王寺区のクレオ中央で大阪府高齢者大学校の入学式が行

長や副理事長の挨拶にも達成感が感じられ、私達の今後の活動にも大きな自信を与えて頂い

われました。あいにくの雨でしたが殆どの受講生が来られたのでしよう。満席に近い状態でした。最初、大スクリーンに高齢者大学校の概要が映しだされ度肝を抜かれました。



テレビ局も取材に来てカメラマンが待ち構えていました。巷間

高齢者大学校は大変人気が高いと感じていましたが、受講内容の随所にも伺われます。理事

たと思います。式次第、順調に進行しましたが、最高齢の受講生代表の辞が有り、意欲満々のお元気な様子に感嘆しました。まさに高齢者大学校の名称に相応しく、活躍して頂けるものと思います。最後に講座のアシスタントとして11名の方が紹介され顔見知りの方も多く

「頑張ってください」と心よりエールを送りました。

NPO法人高齢者大学校SA養成講座第2回受講

5月18日、PiaNPOで開かれている高齢者大学校のSA養成講座の受講取材して来ました。大阪ボランティア協会の事務局長をしておられる早瀬昇先生の授業でした。講義に、皆さん身を乗り出す様にされて、講座への期待感をひしひしと感じました。受講の内容も期待にたがわずテーマもそのものずばり“ボランティア活動の新しい風”、私達も正直活動を通じて色々な悩みに直面します。其の一つ一つが我が身に引き替え思わず苦笑の連続で、つまりはボランティア活動が“好き”。講義にも、「ほうっておけない！」で始まる活動、個々に応じられるボランティア、三好春樹著「教師は何故ぼけるのか」

「間」をどう広げるか、ボランティア活動「究極のレジャー」!私達の日頃???!!!の心的整理が付いた思いでした。



最後に早瀬先生の著書『元気印ボランティア入門-「自由」と「共感」の活動論-』を求め一挙に読みました。

地区 SA だより

大阪市 S A

阿倍野 B B S 会「ミニフェスタ」開催

服部 早樹子 (19期福 IT)

3月28日(土)阿倍野 B B S 会主催による「ミニフェスタ」が阿倍野青年センターで開催されました。午後1時から4時迄でしたが参加者がスムーズに流れ、混雑する事も無く余裕を持って活動する事が出来ました。それでも大阪市内でも有数のマンモス校区でも有り、150人~200人の来場を見込んで、手作りおもちゃクラブに応援をお願いし、十二分な態勢を整え対応しました。13人のボランティアが其々得意の分野を披露、多彩な活動を展開し、皆様に大変喜んで頂けた事は誇りとするところです。此の活動は泉州南の大阪会長様から御紹介頂いたもので、大阪府保護司会会長、阿倍野区更生保護婦人部会長より丁寧な挨拶電話を頂きました。阿倍野 B B S 会高野様からは今後の活動の継続を仰って頂いており、大変やりがいのある活動と張り切っています。今後も新しい作品の創作に挑戦し活動の機会を広げて行きたいと思っています。

四恩学園活動

私達南ブロック(住吉区、阿倍野区、住之江区、西成区、東住吉区、平野区)会員は住吉区内の四恩学園にて活動しています。有名な施設で有り、此处で活動が出来ると言う事はボランティアにとって最高の誉れと自負しています。手作りおもちゃを中心としてディスコン他、私達の願い通りの活動をさせて頂く事を許されています。又、昨年末は注連縄作りを行い理事長様、館長様、先生方、勿論子供達、そして私達南ブロック会員がワイワイガヤガヤ賑やかに楽しく活動し、毎回コーヒーお菓子とごちそうになりますが、この日は昼食もおよばれし皆で美味しく頂きました。皆様の温かい御配慮に感謝、感謝の活動です。今年は、藁の調達が無理なので全て園側に頼る事になり、館長様が調達して下さいました。一年の締め括りの活動がもうこれから準備されます。園では子供達の教育の一環として稲や野菜を育てておられます。又、館長様は、大変素晴らしい(す



ごい?) ボランティアで有り、色々な技を時々見せて下さいます。4月の活動時には重い大きなリングの妙技を披露して下さい、ボランティアを自称している私達が恥ずかしくなってしまうました。きっと、場を提供頂きながら、子供達も私達も全てを大きな心で包んで下さっているのでしょう。

小学6年生までが在籍され卒業されても来て頂く事が有りボランティア冥利につきます。実践の場の活動を積みながらボランティアとして大成させて頂いている大切な活動場で有り、大事に守って行きたいと思っています。

総 会

4月24日(金)午後1時30分から大阪ボランティア協会の3階会議室にて大阪市 S A の総会が開かれました。79名の参加者が有り、21期生の方も多く出席頂いた様です。滞りなく議事運営が進行し、時間も余裕が出て来て総会後のアトラクション、ブロック毎交流が充実したものになった様に思います。アトラクション最初はハーモニカ、絶妙のハーモニーでしたが出演者の皆様が楽しまれ



福々亭多万輝さんの熱演

ているのが良くわかりました。又、素晴らしい美声の持ち主、豊さんが今回も変わらぬ歌声を披露して頂きました。

最後落語で浪華屋阿ら志さん、福々亭多万輝さんの登場です。浪華家阿ら志さんは老大を修了されSAの事はよくご存じでした。演目は「アメリカ人が家にやって来た」。真打は福々亭多万輝さんです。演目は「妻の旅行」お二人とも桂枝三郎師匠の門下(寤兵衛会)で月2回お稽古に励んでおられます。アトラクション終了後は東西南北ブロック毎に分かれ、21期生の紹介をし交流会を持ちました。

21期生新人歓迎会大阪湾クルーズ

石田 昭彦(20期福IT)

大阪湾内のクルージング。久し振りの海である。大阪に居ながら海を見る機会もなく、また海に面した街に住んでいるという意識すらない日々を過ごしてきたが、久しぶりに新鮮なものを感じさせてくれる。海に出れば風に吹かれて寒いだろうと思って少し厚着をしてきたが、何のことはない船内は豪華な会議室風で、杞憂に終わった。左右の舷には大きく見通しがきく、ガラス張りか、それともプラスチック張りか、透明な仕切りで外部とは遮断されているので動くロマンス応接室という感じである。大阪市の広報船「夢咲」はいつもは天保山からスタートしているということだが、今日はATCからの出航で3島(咲洲・夢洲・舞洲)巡りの1時間コースの始まりである。案内のアナウンスを聞きながら外の景色を見ていた向かいの席にいる同じ21期生で東ブロックの女性から「なつかしいね」と思わず声が出る。それはSAの地域交流の際、同じ所属の大阪Bグループで一緒に見学に行ったことのある派手な色彩の煙突がそびえる焼却工場とスラッジセンターである。左右に広がる港湾施設の状況をウグイス嬢(とは、今どき言わないか)が案内してくれるが、心なしか昨今の大阪を反映しているかのように、余り活気を感じさせない。これもご時世ですか。ふと眼を船に戻すと乗船する前まで居たロー・カロリーのバイキングレストラン「悦」の店内で名刺交換をした南ブロックの北野氏がしきりと風船をプードルやライオン、ア

ンパンマンのかぶりものなどの作品に仕上げ、周りの人たちに提供中。早いもの勝ちで案内嬢も説明の合間に求めるほどの盛況ぶりである。下船後、クルーザーをバックに浮き桟橋で案内嬢も入っての記念撮影で締め括り楽しく過ごす事が出来た。



大阪市SAクラブ活動

クラブ グランドゴルフ

奥 善充(17期福祉)

平成20年度最終回のグランドゴルフ、柴島スポーツでSA会員の仲間、色々忙しい中、女性4名男性8名の12名参加、天候にも恵まれ4組に分かれて2ラウンド続けて、そして休憩、優勝候補は誰れ、私ブービー賞目標とか和やかに、そして最終ラウンド、ああ強い、ああ弱いとか、いろいろ言い訳しながらも楽しく、何も忘れて球を打つ。初めての人。ベテランの人クラブリーダーの富田さんに感謝、楽しさを頂き有難うございました。試合終了後有志の人達、吹田のアサヒビールへ。慕かし美味しいビールでしょう!!

平成21年度グランドゴルフは柴島スポーツで5月12日、9月14日、12月8日、3月8日の予定です。皆様のご参加お待ちしております。



ハーモニカクラブ

服部 早樹子 (19期福祉 IT)

4月24日に行われた大阪市S Aの総会後のアトラクションでハーモニカクラブが日頃の練習の成果を発表されました。上島前会長、山尾前事務局長も参加されて、懐かしい童謡を演奏されハーモニカの哀愁あるメロディーに参加者の感動を呼びました。今年はクラブを中心に大阪市のホームページを纏めたい、と思い、練習風景を取材させて頂きました。毎月1回の練習ですが新しい曲を毎回マスターされレパートリーも沢山持っておられます。今迄マスターされた曲を復習され、聞かせて頂きましたが私も一緒に何時の間にか歌っていました。和やかな雰囲気、皆さんかなりのベテランで、譜面が無くても私達が口ずさんで来た曲は吹いて頂けます。ポケットに入り何時でも何処でも自分も周囲も楽しむ事が出来るハーモニカは素敵だと思います。



S A吹田

紙ヒコーキ倶楽部

南ブロック 20 期生の前田正勝様が昨年度から紙ヒコーキ倶楽部を立ち上げられました。ヒコーキはカタカナで倶楽部は漢字で倶楽部と表示する様大変こだわりを持っておられ、私も女性陣一人ですが会員に入れて頂いています。自分で作った紙ヒコーキが遠くまで飛ぶ爽快感は大変嬉しいものです。最初は大阪ボランティア協会を拠点に隣の与力町公園で飛ばしていましたが、現在は活動が広がり、天候にも左右されないで大阪市内の有名スポーツセンターや体育館を利用される事も多く出来る限り出かけています。先日は湊スポーツセンター内でメンバーの一人が気流も関係ないのに低空飛行で旋回を続けドアを超えて玄関先まで飛んだのは驚きでした滞空時間を競う事も有るとか。始めは男の子の活動と捉えていましたが、何の何のおとながはまり童心に帰り賑やかにやっています。皆様も是非どうぞ。



「第5回日中友好文化交流活動」に参加して

佐藤 宏一 (18期国際)

1. 目的

中国における国際文化交流の実践
日本語ボランティアの実践

2. 参加者

18期国際交流修了者を中心に一般参加を含む7名

3. 行程

4月17日 神戸港～(船内:交流準備)18日(船内:太極拳・中国語研修・操舵室見学)～19日(天津港下船～天津職業大学)～20

日(学校内見学・日本語クラブと交流)～21日(中国語学習・日本語授業参観・市内観光)～22日(中国語学習・学生と交流会・さよならパーティ)～23日(天津理工大学へ移動～(学生と食文化交流・夕食会)～4月24日(日本語授業参観～北京空港～夜 関空着)

4. 内容

燕京号での新たな出会い・・・!

今回は2度目の船旅である。船の施設は知りつくしているとはいえフレッシュな気持ち

で乗船した。天津での学生たちとの交流をいかに価値あるものにするかに力点を置いた上記の活動を行った。時間を持って余すのではと心配したが、あっという間の3日間であった。船内で2人の中国人と友好を深めることになった。

・西岡韶華さん(天津市に別荘を持っている)
ご主人が日本人で若くして死別、本人は京都大学の建築科を卒業している。とても親切に中国語の発音を指導してくれた。

・韓 琳さん

関西学院大学 法学部を今年4月に卒業し伊藤忠商事に就職し北京駐在となった。日本人と中国人の違いなどを経験の生かした情報を提供してくれた。カラオケの歌もうまかった。

天津職業大学

今回から公式訪問のもてなしを受け、董剛校長が歓迎をしてくれた。ホームページには大阪府知事団一行の先生の扱いになっていた。1年、2年生の学生を中心に交流会を行った。3年生は昨年の交流会に参加した学生が大勢でホテルにやってきて旧交を温めた。日本語学科で日本語を学んでいるが、日本人と話す機会は、私たちのボランティア以外にないとのこと。彼らにとっては日本人と肌で接触して日本語を話すとても重要な機会となる。学生たちは全寮制である。われわれは学生食堂と一緒に食事をした。「先生!ここ危ないで

すよ。」「先生!大丈夫ですか!」と大勢の学生たちから声をかけられる。学生たちに見守られての生活である。校長先生が述べられた「3年続けて来られたことが学生たちにとってもよい影響を与えています」学生たちの我々に対するいたわりの気持ちが伝わってくる。開校以来8年間、日本語講師を続けておられる大澤尚史さんが大きな力を与えてくれている。感謝を申し上げたい。

天津理工大学

昨年の船の中で一緒になった曹さんがアレンジメントしてくれた。巻き寿司と水餃子の食文化交流は、素晴らしい内容で盛り上がった。物流管理科のクラスの学生たちは、2,400の日系企業から求人があるそうだ。隣に座った女子学生、張捷(ちょうしょう)さんがメール友になった。日本語学習教室の授業を見学した。一クラス27名(女14、男13名)が二人ペアで日本語トークを披露してくれた。

5.まとめ

私たちのボランティア活動を継続してきたことが、大学側の理解が得られ学生たちの自主性が生まれ自らのプログラムで交流会が持てるようになった。この活動の継続を推進していきたい。

大阪府高齢者大学校を紹介した。中国語科の講座を開設して天津市の大学との交流が展開できればとの思いを強めた。



日本のボランティア活動を講演する



おもちゃ・折り紙

ふれあいサロン喫茶「あすか」 ニッセイ財団生き生き活動顕彰を受ける

乾 節子（茨木 15期地活）

昨年末に大阪府の社会福祉協議会 シニア活動センターからの推薦を受け申請書を提出していましたが、このほど正式の顕彰決定の知らせが届きました。生き生きシニア活動をしている団体に贈られる顕彰で、全国都道府県知事から候補団体の推薦を受け、財団の選考委員会および理事会において選考、審議の結果贈られるものです。「あすか」にとって顕彰金ありがたいことですが、それ以上に私達のささやかな活動が認められたことは、なによりの喜びです。サロンをオープン以来、シルバーアドバイザー茨木同窓会の会長をはじめ多くの皆さんに、いろいろな活動の応援をいただき、改めて感謝申し上げますとともに、喜びをご報告します。これからも小さな灯ですが、高齢者の居場所づくりと自立支援のためのサロンの運営活動を続けていきたいと願っています。どうぞ今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

シルバーアドバイザー講座を修了後の平成15年4月、大阪府の高齢者を対象としたコミュニティワーカーズ事業として、100万円の助成金を得て、ふれあいサロン喫茶「あすか」をオープンしました。高齢者の生きがいと就労を目的とする事業で、府下にも100余のグループがあります。一人暮らしや、元気な高齢者の居場所として、お互いの生きがいと自立を求めて共に活動すること、そのこと自体が介護予防にもつながることではないかと思っています。私がこのボランティア活動を始めた動機として、二つのことがあります。15年前、初孫の誕生を喜んだ3日後、MRSAの院内感染で、赤ちゃんは高熱から敗血症となり、命の峠を迎えました。祈ることしか出来ない私は、この命に替えてもと思い、神様に命を預けました。幸い1ヶ月後に無事退院できたことは今も感謝です。以来いつ

かそのときが来るまで、人のために働くことを使命と思っています。又、阪神淡路大震災のときに、所属団体を通じて働いたボランティア活動での経験が大きな動機となっています。全国からの慰問品の整理に1ヶ月間通った鳴尾浜や、その後服部緑地に出来た仮設住宅への、バザー用品を携えての毎月の慰問に通った2年間、そこでの経験は、非力な方やお年寄りたちの悲しみ、苦しみ、寂しさを肌身で感じたことです。いつかもっともっと寄り添ってあげられたらと願っていましたことを形として、我家を開放して、ふれあいサロンを開設しました。6年目を迎えた今、人の為にと考えた自分が恥ずかしく思うほど、多くの皆さんに助けられ、励まされて、今では自身の生きがいとなっています。絵手紙や書道、カラオケ、折り紙、お抹茶、男性料理等、どんどんプログラムも増え、教えたり、学んだりの交流は、それぞれの生きがいになっています毎週1回の昼食タイムは溢れるばかりの笑顔で賑やかなひとときです。大上段に構えて取り組んだボランティアとは異なり、肌で感じた小さな思いから、ささやかに始めた私のボランティア活動ですが、年を重ねるうちに、だんだんその形にふくらみが増しつつあることを日々実感しています。



20周年を迎えた堺 SA

堀 富治 (18期福 IT)

大阪府の高齢者福祉の一端として「大阪府老人大学講座(老大)」と「シルバーアドバイザー養成講座(SA)」が運営されていた。

老大は[21世紀の新しい高齢者として、自ら社会で得た経験・知識・技術を活かし、自ら学び、自ら考え、自ら行動することにより、生きがいをもって社会に貢献できる、「アクティブ高齢者」を養成するとともに、講座運営を通じて府内市町村の高齢者の生きがいづくりや各種講座の支援をめざすことを目的として、1979年に府立老人総合センター(吹田市山田)で開講された。一方SAの目的は、活力ある福祉社会をつくるため、高齢者自らが長年にわたって培った豊かな経験や知識、技術などを活かし、より専門的な知識を身につけることにより地域社会における福祉分野を中心とするボランティア活動の専門的な人材を養成する、として1988年老大と同じ総合センターで開講され第1期生が1989年春誕生したことになる。

堺SAでは平成17年3月31日に『堺SA15周年誌』を発行している。

それによると、第1期生誕生の年“8月[シルバー交流会]を結成した”と記録されており、我々は先輩のともした灯を後輩に引き継ぐ責任を感じる。老大は2007年北部、南部、東部講座を統合しその名も「大阪府高齢者アクティブシニア講座」としてスタートした。またその年SAも東部講座と南部講座を大阪市谷町に統合講座の数も増えたが今年(2009年)民間委託で老大とSAは新たに「大阪府高齢者大学校」に変わり、華やかな時代は終わりを告げた。

最近医療などでは75歳以上の方を後期高齢者と呼ぶようになるなど高齢化社会に変わり行く様は激しいと表現したくなる。

20周年を迎えめでたいとだけありがたいのだが、講座の流れを見ると終焉の感じである、新しい時代のSAを創設する力強さがほしい。

S A 連協 部会便り

ホームページ部会

部会長 森 孝二{吹田 18期地活}
地域選出のHP担当委員の方で画面の更新が自由に出来る勉強会を月2回開催してい

SA連協のホームページは開設されてから6年になりました。ご覧いただいていますか。毎月の理事会議事録による、SA連協の全体の動向、高齢者大学校の設立・開校の情報、また各地域のページによる身近なSAの活動予定日、ニュースなどタイムリーな情報が一杯詰まっています。昨年からは、各都市別の独立したTOPページを作成して、自主的な運営を進める準備を進めて来ました。そのために、



ます。(委員以外の方も参加できます)現在7地区のページが生まれ変わっています。ぜひ、お住まいの都市のページをご覧ください、ご意見をお寄せ下さい。閲覧には、「シルバーアドバイザー」で検索するとTOPに表示されます。

URLは <http://sa-renkyo.com/> です。ぜひ「お気に入り」に登録して定期的にご欄ください。

広報誌部会

広報誌部長 服部早樹子（19期福祉IT）

昨年度から広報誌部を担当し、皆様にはシルバー通信として3号誌迄を配布致しました。初の試みとして、全地区の活動状況、大阪市SAの西岡氏の野鳥の写真、SA養成講座先生方の記事を、又、NPO 法人大阪府高齢者大学校設立に関する関連諸団体のイベント等の取材記事を掲載し、大変ご好評を頂きました。

本年度も編集委員メンバーの中核を担う方々が多く残って下さり、より充実した立派なシルバー通信をお届け出来るよう努力致します。そして従来と変わらず、皆様にも関心を持って頂ける高齢者大学校SA養成講座等も取材して行きたいと思っています。

又、平成22年3月に20周年記念誌号発刊を予定しており、各地区の“あゆみ”“活動”“現況”“会員の皆様の思い・一言”等掲載計画しています。各地区に於かれましては情報収集等、お願い申し上げます。



福祉IT部会

部会長 榎本 龍彌（いけだ 21期福祉IT）

今年度、SA連協の中に福祉IT部会を発足させるにあたって、部長に選任されました。

福祉ITの修了生は既に5期を数え、総勢150名強です。SA連協にはITの活用場としてホームページ部会がありますが、ITを福祉に活用し、福祉関連の事業所とSA連協が大阪府下全域で連携できるような活動の場を設けるべく、今年度、福祉IT部会を発足させました。

今春の20年度SA養成講座学習研究発表会で、福祉IT専攻が発表したテーマのひとつに「福祉事業所が自主製作する授産製品を紹介するサイトの構築」があり、これをSA連協の福祉IT部会で継承し、府下全域に発展させることを活動テーマにする予定です。授産製品の紹介を希望する福祉事業所の発掘と掲載資料のとりまとめ、ホームページの作成と更新、このサイトを広報するために関

連機関との折衝など、多くの活動が必要です。ホームページ部会のご協力をお願いするとともに、福祉IT出身の方はもとより、福祉事業所にご関心のある方の多数のご参加を期待しています。



授産施設「ウォンバット」(池田市)の授産製品
スワロスキービーズを使用したネックレス

健康増進部会

健康増進部会は2007年7月に、大阪市SAで立ち上げました。以来地道に活動に取り組

部会長 池田 紹一（大阪市 19期健増）
んできました。メンバーも北摂地域から堺、泉州、藤井寺と府内一帯に広がり確かな活動

の根を張ったと思います。毎月2回、難波オーキョウ4階で研修会を実施していますが、何時も全員参加で有り、其の意気込みが各地



での活動時に現れ、主催者に感心頂いています。研修時も色々なアイデアが出、即それを取り入れた動きが出来る様に練習を重ねています。

又、ユニフォームを作りSA各地、社会福祉法人と要請があれば活動を実施しています。「健康増進エクササイズにより、高齢者になっても、要介護状態になる事なく、楽しく生涯健康な生活が出来る様にする。健康で活力ある地域社会づくり、健康増進に関連する活動をする」をテーマに今後も頑張っていきたいと思っています。

おもちゃ

部会

基本的目標

「おもちゃづくり」を通じて高齢者と親子の三世代の交流を目指し活動する

国の内外を問わず子どもたちに日本の優れた文化の一つである「伝承玩具」を紹介し共に「つくる喜び」や「遊ぶ楽しさ」を体感してもらうことを目標とする

具体的施策

1. おもちゃ部会の開催

各地区よりおもちゃ部会員を選出してもらい適宜必要に応じ「おもちゃ部会」を開催、情報交換と地区イベントに対し広域的に相互協力できる体制づくりを図る

部会長 森田 展生（寝屋川 7期世代）

2. 「おもちゃ教室」の開催

SA会員を対象とする「おもちゃ教室」を隔月毎に開催し、新しい「おもちゃ」の開発、応用、受講者の技術・能力向上と地区間の情報交換を図り、会員間の交流を目指す

(奇数月の第3火曜日 13:30～15:00)

3. 関係団体との連携・協力とイベント参加
自らの企画によるイベント運営活動の他、大阪府地域福祉推進財団、NPO 法人シルバーアドバイザー・ネット大阪等関係団体と連携を図り各イベントに積極的に参加協力する

歌体操部会

今年は「ブロック活動」を取り入れ、交流を図り、部会の活性化を目指します。

地区SAの皆さまのご協力ご支援のほど、よろしくお願いいたします。（歌体操部会長）

【編集後記】

6月に入ると、新型インフルエンザ騒動も一段落の様子で、地域におけるボランティア活動も、平常に戻ったようです。

今年度は身の丈（予算規模）に応じた形で、会員の皆さまのボランティアによる広報誌の発行を心掛けたいと思います。たとえ写真の見映えは

劣ったとしても、モノクロの紙面に寄稿者や編集者の汗の跡を感じていただけるような、紙面作りを目指します。

皆さまのご協力よろしくお願いいたします。

松本 勉（茨木 20期福祉IT）